

災害時ヘリ活用へ訓練

鴨川シー、輸送手順を確認

訓練で、赤十字飛行隊群馬支隊のヘリコプターで運ばれてきた支援物資を受け取る荒井総支配人(右)と鴨川市の鴨川シーワールド駐車場



鴨川市の鴨川シーワールドで、群馬県富岡市の群馬サファリパークから飛行してきたヘリコプターを活用した災害対応訓練が行われた。災害時の人員や物資の輸送と被災状況把握の手順を確認した。

日本動物園水族館協会は東日本大震災後の2012年、赤十字飛行隊群馬支隊との間で「災害救護・支援活動の協定」を締結した。同支隊は災害時、航空機を無償で出動させ、全国の加盟団体の駐車場を活動拠点に動物園や水族館を支援す

ることになった。

訓練は4回目で、鴨川シーワールドで行われるのは初めて。関東近海で大規模地震による津波被害の発生を想定し、群馬を飛び立ったヘリ2機が鴨川まで物資を輸送するとともに、上空から道路などの状況をチェックした。

同館の荒井一利総支配人は「震災時には福島の水族館から動物を受け入れた。輸送を道路からではなく、ヘリで行えるのはありがたい。訓練を続け、災害時に活用できれば」と話した。